(C)日刊スポーツ新聞社

◆アマ・プロ野球「私もひと言」◆

初速だけでなく終速の表示も。150㌔を超す速球も伊良部を除けばやや物足りない気も。ベース上でホップした江川の真っすぐは忘れられない(紅林祐輔 25=東京・世田谷区)

原監督の下4番原だ

巨人18年ぶり捕手 先輩の写真に手合わせ満願

喜びのドラフト1位

巨人が18年ぶりに捕手として1位指名した東海大相模の原は、「野村ID野球」の信奉者だった。神奈川県相模原市にある学校の校長室のテレビで、原は吉報を見届けた。

意中の球団の指名に「トメ(福留)には悪いけど、長嶋さんが手を上げないことをちょっと願ってました」と正直に告白。ついでにもうひとつの本音を漏らした。

「巨人のなかでは村田(真)さんが目標。それと日本シリーズでの古田選手のID野球のすごさに感じ入りました」。堂々と、敵将野村ヤクルトを持ち上げた。好きな言葉もまた、野村監督の著書「勝者の資格」の中の言葉と言う。「物の数を極め、工夫をこらす」。いろいろ経験しながら努力を怠るな、ということです」。建前で球団を持ち上げるより、さわやかで頼もしい。

でも忠誠心は巨人一色。小さいころからのファンで、しかも3年前の出来事が「巨人命」を決定づけた。秦野シニア時代に、今年で引退した同姓で高校の先輩でもある原辰徳氏と対面。その時、一緒に撮った写真を自宅に飾っており、この日も写真に手を合わせて願をかけたという。「先日ミットをいただき、そのお礼に電話をしたら、"泣くまで努力しろ"とアドバイスされました」。尊敬する先輩が引退した年に、同姓の後輩が後を継ぐ。

まずプロに通用する体をつくってから、という原二世の夢は「巨人原監督」実現の折にホームプレートを守っていることだ。【沢田啓太郎】

巨人に1位指名された東海大相模の原俊介は野球部員に胴上げされ大喜び(神奈川・相模原市の東海大相模で)

不安から大喜び

中日荒木

予想だにしない指名に、熊本工・荒木は一緒にテレビ中継を見ていたチームメートと何度も抱き合った。「指名してもらえるかどうか不安だったのに、まさか1位なんて……」。中日には同じ内野に名手立浪がいるが、「立浪さんのような、上手な人を目標に頑張っていきたいと思います」。1位指名に自信を得たのか、言葉にも勢いがあった。

脇役でも大喜び

日本ハム中村

中村豊外野手(22=明大)は一人静かに喜びをかみしめた。というのも、記者会見での隣席は注目の野村克則捕手(22)で、中村への質問はほとんどなしだったからだ。それでも会見後には「1位で指名された喜びで胸がいっぱいです」と満面の笑みだった。「わき役?

日本ハムに1位指名された中村は、トレーニングルームでガッツポーズ(東京・調布市の明大合宿所で)

高校の時も同期の数田(今ドラフトでロッテ2位)が騒がれていたし気にしません。これからですから」と野村への視線に早くもライバル意識を込めていた。

広岡さん教えて

ロッテ沢井

ヤクルトとの競合の末、外れ1位に決まった銚子商の沢井良輔内野手(17)は、「両方好きな球団だったので安心して見ていました。やっと決まったなという感じです」と、落ち着いた口調で話した。

自分の抽選より親友である福留(PL学園)の抽選が気になったようで「トメ(福留)にとって希望球団じゃなかったけど、最近パ・リーグも人気があるので入団してほしい。一緒に対戦できたらいいですね」と話した。沢井にとってロッテは地元球団。「もっとうまくなって、初芝さんに近づきたい。広岡さんならうまく教えてくれると思うこと」と、早くも相思相愛ぶりをアピールした。

シャンパンシャワーを浴びる西武1位指名の高木大成(横浜市で)

伊東さん教科書

西武高木

慶大・高木大成捕手(21)はこの日、東京・八王子市の自宅から車で1時間半かけて横浜市の同大合宿所に到着。西武からの指名を待った。テレビに映った自分の名前を見るとホッとした表情を浮かべ、「私を指名してくれた西武球団に、感謝申し上げます」と話した。早くも「ポスト伊東」の呼び声がかかるが、「伊東さんは僕の教科書みたいな人。見習うべき点を吸収して、捕手としての技術を高めていきたい。開幕一軍を目指してこれから練習に励みます」と意欲を語った。会見後は、合宿所に駆けつけた4年生部員たちからシャンパンシャワーの祝福を受け、満面の笑みを浮かべた。

ダイエー1位指名の南京都・斎藤

「パ一の投手に」

ダイエー斎藤

南京都・斎藤和巳(17)の元に早速、永山スカウトが指名あいさつに訪れた。本部理事長、宮山監督らを交えた会談は終始なごやかムード。「他球団に自分の名前が出てこないように考えてました」と斎藤。永山スカウトからの「パ・リーグを代表する投手になる。150㌔も夢ではない」の言葉に照れ笑いの斎藤だったが、「工藤さんのような投手になりたい」と目標をきっぱりと言い切った。

学校創立12年目にして初のプロ選手誕生に学校側は早くも表彰(創設者賞)を考えていた。

仰木監督から直接電話を受けニッコリの九州学院・今村(右)。後方は緒方前監督

仰天仰木TEL

オリックス今村

「うちは若手がいっぱいいるから、安心して神戸へおいで」。指名直後の午後2時15分、仰木監督からの電話に、今村文昭(18=九州学院)のほおが紅潮した。「やっと1位の実感がわいてきました」。仰木監督からは野手の経験について聞かれ、「小、中学時代に内野をしたことがあります」と野手転向に前向きな姿勢をアピールした。

レイアウト　茂田井祐史

「夢が現実に」

横浜細見

晴れて1位指名を受けた細見和史(22=同大)は胸をなで下ろした。大学通算18勝のエースも初の経験に緊張気味だっただけに、ひと息ついた格好だ。「ようやく夢が現実になった感じ。うれしいという気持ちでいっぱいです。若い選手も多いので一緒に頑張っていきたい。持ち味の速球を磨きたい」と抱負を口にした。明日24日に同大で高松スカウト部長、宮本スカウトのあいさつを受け、入団決定に一気に進む。

「まず一軍定着」

阪神船木

広島・福山のNKK内に用意された会見場の社員から拍手が起こった。船木本人は緊張感を解かれた表情でモニターを見据え続けていた。正式に指名された船木は「やっとひと安心、といった感じです」と心情を話した。自らの逆指名で、阪神入りは確実だったが「(会見場に)入った瞬間、緊張してしまった」と言う。即戦力としての期待は高い。「まずは一軍に定着することですね。そして、1勝できたら、あとは勝てるだけ勝ちたい」と意欲を見せていた。

津田投手が目標

広島長谷川

市銚子の大型右腕・長谷川昌幸投手(18)は、「ありがとうございます。広島さんに感謝しています」と、マイクに向かって深々と頭を下げた。前日21日にオリックスが突然、指名を回避。「(広島も)本当に指名してくれるか不安で、夜は眠れなかった」と振り返る。それだけに広島の予定通りの指名に、こわばっていた表情が一気に緩んだ。「広島は選手を育てるのがうまい球団だと思っています。目標は津田(恒実)投手(故人)。早く一軍に上がってセールスポイントのストレートを全国のみんなに見てもらいたい」と声を弾ませた。この日午後には広島苑田スカウトのあいさつを受けた。「広島・長谷川」へ、もうオリックス指名回避のショックは見られなかった。

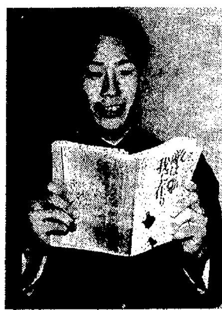
ともにドラフト1位に選ばれた銚子商・沢井(左)と市銚子・長谷川は大漁旗の前で健闘を誓った(千葉・銚子市役所で)

「福留に負けん」

ヤクルト三木

「信じられない。この僕が1位なんて……」。上宮の大型遊撃手・三木肇内野手(16)はビックリだった。指名があったのは授業中。授業終了後に行われた会見で、三木は笑みをふりまいた。「ヤクルトは日本一のチームですし、光栄です。池山さんを目標にしたいですね」

と、心は既にツバメ軍団の一員だ。その一方で「僕は外れ、外れの選手ですから」と福留、沢井と争った末の指名だっただけに、表情を引き締めることも忘れなかった。特に、福留へのライバル心は強烈なだけに、1位指名といっても手放しで喜べないのだった。「これから頑張りますよ」という短い言葉には「プロでは絶対に負けん」という意地が込められていた。



早速ID野球を予習!? ヤクルトから1位指名された上宮・三木は野村監督の著書に目を通す

福留パへ来い

イチローが清原が

社会人3年間は遠回り

清原 先輩の親身になったアドバイスだった。西武清原がPL学園(大阪)の後輩となる福留に「プロに来い! 待ってるゾ」と言葉を送った。テレビでドラフト中継を観戦、福留の抽選にはかたずをのんだ。清原自身、1985年(昭60)のドラフト会議で6球団が競合。熱望した巨人は同僚だった桑田を1位指名。記者会見で悔し涙を流したのは有名だ。希望球団でない場合は社会人野球の日本生命(大阪)入りを表明していたが、西武に入団した経緯がある。福留も希望球団以外は日本生命入りを表明。交渉権を獲得した近鉄は意中の球団ではないが、清原は「プロ希望ならば、社会人野球の3年間はもったいない。オレもいろいろな意見を聞いてプロを選択したけど、今思えば正解だった。プロの練習は全然違う。希望球団ではなく悔しいと思うけれど、近鉄で頑張った方が得策だと思う」と、アドバイスした。

来年3月30日のパ開幕戦は西武対近鉄。福留が近鉄に入団してレギュラーを獲得すれば、清原と先輩、後輩の夢の対決が実現する。「オレと対決? まだ10年早いわ」と笑い飛ばして貫録を見せたが、「プロにきたらアドバイスする」と母校の後輩にラブコールを送った。【平井勉】

一緒に盛り上げよう

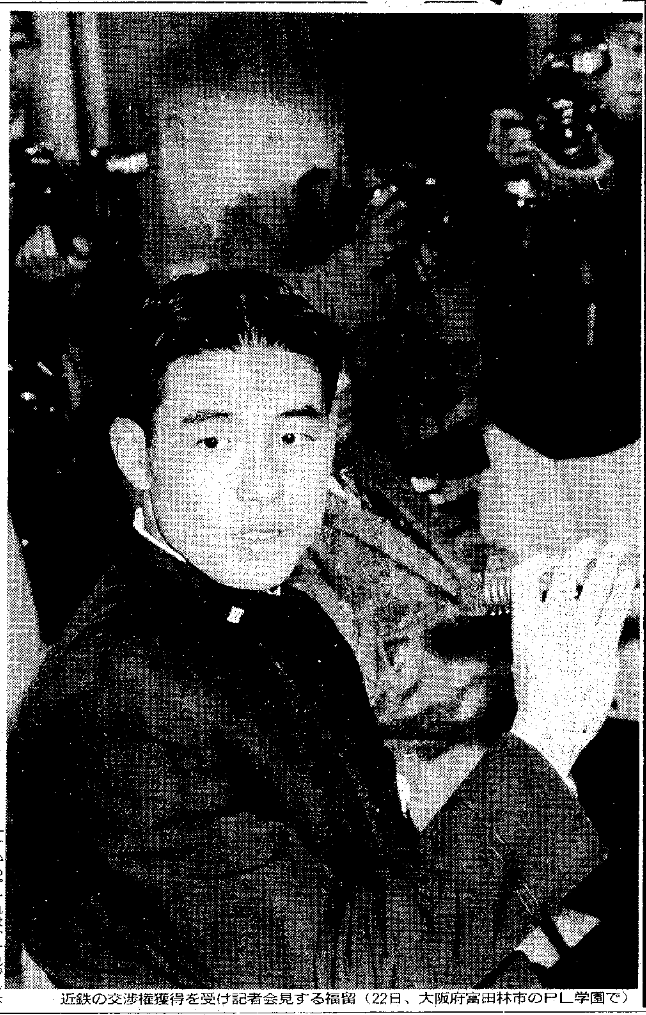
イチロー オリックス・イチローが、福留を呼んだ。「進路を決めるのは結局、自分自身。だけど、一緒にやればいいと思う。パ・リーグに来てほしい? そうですね、一緒に盛り上げていきたいですよね」。

テレビの前で、日本球界を代表する男も緊張していた。前夜に行われた球団納会のため入っていた沖縄・那覇市内のホテルの一室。「緊張しました。ドラフト中継を見るのは初めてということもあったけど、やっぱりあんな場所に行かなくて良かった」。幻の仰木プランで抽選クジを引かされそうになっていたイチローだけに、あらためてその緊張感を思いやった。

福留の意中だった巨人、中日はクジに外れた。「運命ですから。それは、それでしょう」。強い言葉には自負がある。ドラフト4位指名で入団。プロ選手になるのが夢だったイチローは一切、条件はつけなかった。結果を出す前からいろいろ言っても仕方がない。力を見せてから周囲を変えていけばいい。それがこの男の哲学。将来のパ・リーグを、プロ野球を背負って立つと信じる福留にもその哲学を勧めたい。

ドラフト中継を見た後は、沖縄の繁華街・国際通りへ気晴らしのショッピングに繰り出した。

帽子を目深にかぶって歩いた国際通りでは握手攻めにあってしまった。「疲れますけど。でも仕方ないし、ありがたいことでもありますから」。現在のパの盛り上がりをつくった男が、あらためて語った。「福留君、一緒にやろうよ」。【高原寿夫】



近鉄の交渉権獲得を受け記者会見する福留(22日、大阪府富田林市のPL学園で)

三村監督の予言通り

広島・三村監督が近鉄の福留当せんを予言した。7球団の競合となった福留の抽選前に、三村監督が「これは佐々木(監督)が引くよ」と隣の備前チーフスカウトに近鉄の当せんを予言。結果は見事に的中して「やっぱり言った通りになったよ」と喜んでいたが、もちろん当たったからといって何のメリットもない。1位長谷川が競合になっていれば初めてのクジ引き役が回っていただけに「この調子なら引けたね」と言わんばかりの得意顔だった。

野村、星野1位抽選連敗

佐々木のパフォーマンスに「気合外された」

最初のクジで最大の目玉・福留を近鉄佐々木監督にさらわれた他の6監督はなすすべもなかった。巨人長嶋監督をはじめ、ほとんどの監督がまだ封筒の中身を確かめる前だった。ガッツポーズをしながら席へ戻る佐々木監督とは対照的に、長嶋、中日星野監督、ヤクルト野村監督だけが苦笑いを浮かべて引き揚げた。

長嶋監督は「あの声にやられました。(福留の)願いをかなえてやりたかったんですけどねえ。若き佐々木監督の執念というか集中というか、よほど強運だったんでしょう」。競合した7球団の中で一番先にクジを引いた近鉄に当たった。「最初に当たりクジというのは恐らく初めてでしょう。普通は残りクジに福があるんですけどねえ」とため息をついた。

それでも中日と外れ1位で競合した東海大相模・原の抽選では当たりクジを引き当ててみせた。これまでこわばっていた顔がみるみる崩れ、右手で小さくガッツポーズ。

オーラス7番目のクジにすべてを託した野村監督は「今年は残り福がなかった。縁がなかったということや。ああいう大物ルーキーを一度育ててみたかった」と悔しがった。野村監督は外れ1位の銚子商・沢井の抽選でも外れ。ID野球で日本一になった同監督だが「クジは努力無用の運だから、どうしようもない」と苦笑いでごまかすしかなかった。

もう一人、2度ともクジを外したのが星野監督。前回監督時代の1986年(昭61)は5分の1で近藤真一投手を、翌年は2分の1で立浪和義内野手を当てたが、今回は全敗。外れ1位の原の抽選では「気合が入っていなかった。心のスキがあったな」とガックリ。福留を外したショックが残っていたのか、燃える男の本領は最後まで封印されたままだった。

1、2位指名選手と交渉権獲得状況(○は抽選で獲得、×は外れ、無印は単独)

球団	1位			2位
近鉄	○福留			岡本
阪神	船木			中ノ瀬
ダイエー	斉藤			松本
中日	×福留	×原	荒木	門倉
日本ハム	×福留	中村		荒井
横浜	細見			関口
西武	高木			大友
巨人	×福留	○原		仁志
ロッテ	×福留	○沢井		数田
広島	長谷川			吉年
オリックス	×福留	今村		川崎
ヤクルト	×福留	×沢井	三木	宮出

野村父子ツバメ誕生

「長嶋目指せ」と父が背番33希望

ヤクルトに父子鷹ならぬ「父子ツバメ」が誕生した。野村克也監督(60)は22日、ドラフト3位で三男克則(明大4年)を指名した。交渉権が確定すると、監督から父親の顔に戻る。すぐに会場内の個室で球団幹部と契約金、年俸を話し合い「うちの息子にはすぎた条件」と父として入団を即決。

注目の背番号については、巨人長嶋監督と同じ「33」を希望していることを明らかにした。「親として長嶋さんにあやかりたいと思い、33を希望したよ。息子は3に縁があるようだし、33はうちでは中西の番号だが、できれば33になればと、今日お願いしたよ」。

常にライバルとして意識してきた監督の背番号を息子に贈る。矛盾するが、そこには親心があった。「長嶋監督のようになれ、実力も人気もある、お客を呼べる選手になってほしいんや」。シーズン中の激しい対抗意識も影を潜め、ただただ息子の成功を祈る親の姿があった。また、登録名も「J・R(ジュニア)」を推薦。「何とかファンからもチームメートからも親しまれるように」と、ここでも野村監督が親バカぶりを見せた。

一方の克則も初体験にはらはらの連続。指名前には口数も極端に減り顔をひきつらせた。無事に指名を受けると「心は快晴です」とはきはきと答えた。「グラウンドに出れば監督と選手。けじめをつけたい。背番号も監督さんがそうおっしゃってくださるのはうれしいです」。呼び慣れた「おやじ」をぐっとこらえ、「監督さん」と言葉を選んだ。ヤクルトの父子ツバメは入団発表となる12月15日、その日に克則が契約を終え晴れて二人の野球人生をスタートさせる。【井上真】

ヤクルトから3位指名を受けた野村(左)は、父野村監督のお面をつけた同僚の中村に耳をつままれ「ギャー」(東京・調布市の明大合宿所で)<カメラ・中村誠慈>

◇プロ野球父子鷹◇

選手名(所属)	プロ通算成績
浜崎 真二(阪急)	試30勝5敗5防4.03
勝(高橋)	試68率.113本0点5
堀井 数男(南海)	試1551率.272本80点785
和人(南海)	試386率.207本3点11
皆川 定之(東急)	試895率.204本21点208
康夫(広島)	試173勝26敗28防3.46
香川 正(近鉄)	試81率.182本0点5
正人(大洋)	試19勝5敗0防4.71
藤倉平三郎(西鉄)	一軍不出場
多祐(ロッテ)	試182率.198本3点6
永田 徹登(広島)	一軍不出場
利則(ダイエー)	試46率.197本0点5
田中 守(阪急)	試614率.243本14点139
力(ロッテ)	試1率.000本0点0
藤本 健作(巨人)	試1勝0敗0防4.50
健治(巨人)	試48率.111本0点1
内山 和巳(中日)	一軍不出場
憲一(ヤクルト)	試12勝0敗1防5.75
マーティ・キーオ(南海)	試134率.231本2点46
マット・キーオ(阪神)	試107勝45敗44防3.73
長嶋 茂雄(巨人)	試2186率.305本444点1522
一茂(巨人)	試361率.216本15点74
高井 準一(近鉄)	一軍不出場
一(阪神)	試78率.258本2点18
脇坂 隆志(近鉄)	試2率.000本0点0
浩二(ダイエー)	試87率.190本0点6
佐野真樹夫(広島)	試162率.245本3点17
心(中日)	試27率.091本0点1
若林 淳至(西鉄)	一軍不出場
隆信(広島)	試4勝0敗0防5.40
市原 稔(南海)	試1率.000本0点0
圭(中日)	試10率.235本0点0
五島長登志(ロッテ)	一軍不出場
裕二(オリックス)	一軍不出場

【注】所属は現役最終

ヤクルト桑原潤オーナー(63)
決まったようですね。父子ツバメの誕生だね。新しい親子関係ができる。話題にもなるし、楽しみにしています。

即戦力不足で高校生指名増加

ドラフト総括

1、2位選手の逆指名制度が始まって3回目のドラフト会議で、1、2位では過去最多12人の高校生指名(大学6人、社会人6人)となった。93年の内訳は高校生5、大学生9、社会人10で、94年では高校生9、大学生8、社会人7だった。

逆指名制のなかった87年に高校生は1、2位24人中、14人を数えたことがあるが、この年は立浪(PL学園、中日)橋本(同、巨人)伊良部(尽誠学園、ロッテ)盛田(函館有斗、横浜)らスター予備軍めじろ押しでもあった。今回の高校生12人指名は、その87年以来最多も、内容的には社会人、大学での即戦力"コマ不足"での将来性期待というのが各球団の正直なところ。高校生主体のドラフトに総指名数68は、ここ3年では最多でもあった。

指名選手出身別内訳

	高校	大学	社会人	計
投手	16(12)	5(8)	12(14)	33(34)
捕手	5(6)	6(1)	0(0)	11(7)
内野手	5(4)	2(4)	5(6)	12(14)
外野手	5(6)	4(0)	3(2)	12(8)
計	31(28)	17(13)	20(22)	68(63)

【注】( )は昨年

熊本工から3人

高校球界の名門・熊本工から荒木(中日1位)松本(ダイエー2位)田中(オリックス5位)の3人が指名された。1986年(昭61)以来、9年ぶりの快挙に熊本工は一日中、喜びに沸き返った。

今夏限りで勇退した山口俊介前監督(50)は「前回は近鉄5位指名の杉本拓也(プロ入りせず、新日鉄広畑)、ロッテ5位の永野吉成(現横浜)、巨人6位の緒方耕一だったが、今回は上位が二人もいる。名誉なことです」と感慨深げだった。

専大・小林ら漏れる

コミッショナー事務局に入団希望確認書を返送した大学・社会人の今ドラフト上位候補23選手のうち、専大・小林幹英投手(21=新潟明訓)だけが指名漏れした。専大は東都2部秋季リーグで優勝。公式戦である1部入れ替え戦(対日大)を残していたため、プロ側との交渉期間は17日の提出期限まで約1週間しかなかった。

同じことが、指名のかからなかった日大・高根沢力捕手(22=宇都宮学園)にもいえる。11月に入ると各球団もドラフト戦略をほぼ固めつつある。不幸にも交渉期間の短かった両選手がその影響をもろに受ける結果となってしまった。

指名されなかった主な選手は次の通り。

【社会人】高橋顕幸(日本石油)玉城誠(本田技研熊本)小笠原道大(NTT関東)荒木準也(プリンスホテル)

【大学】小林幹英(専大)徳丸哲史(明大)寺山信正(名城大)高根沢力(日大)浦口雅広(関大)

【高校】千葉純(金足農)藤井秀悟(今治西)岡田隆紀(旭川実)

日刊スポーツ・リアルタイム情報(有料)
プロ野球・スポーツ電話速報
東京地区 0990(52)0089
横浜地区 0990(52)7089
東海地区 0990(52)2089
九州地区 0990(52)3089
仙台地区 0990(52)8089
札幌地区 0990(52)9089
●情報料は1分70円
FAX速報は0990(51)6954へ
・情報料は1分80円です
一般及び公衆電話
からは03(5645)7789へおかけ下さい。カード(JCB、日本信販、オリエント、ダイナース、国内信販)番号や暗証等のプッシュでかけられます。
FAX速報(野球、サッカー、プロレス、競馬、競輪、他)は03(5645)7711へ。情報料は1分100円です
お問い合わせは03(3546)5976へ